

## 休息の必要性

マルコによる福音書六章30〜44節

イエスは、「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行き、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。(31)

伝道の成果を興奮気味に報告する弟子たちに、主イエスは群衆から離れてしばらく休むようにと勧められました。休むことの必要性を主イエスは見抜いておられました。伝道の成果は主のみわざに過ぎないのに、自分たちの力でそれを勝ち取ったかのように錯覚してしまう弱さを知っておられたからです。働きに自己満足が伴い、自己満足はその働きにさらに拍車をかけ、自覚のないうちに内なる霊性が貧しくなり、ついには燃え尽きてしまうことがあります。休息で大切なのは、ただ肉体と精神の疲れを取るだけでなく、神のもとに帰ることです。その働きは神が与えてくださった賜物ですから、神に帰り、神を仰がなければなりません。そこに魂の真の休息があります。私たちは地につけた働きを続けるために、主イエスの勧めに従い、神のもとに憩う時を大切にしたいものです。